

Ⅲ NIS 諸国全体の投資環境

1. ビジネス環境ランキング

NIS 諸国の投資環境は国によって大きく差がある。世界銀行のビジネス環境ランキング（2015 年）でその投資環境をみるとロシアは全 189 カ国中 62 位であり（BRICs 4 カ国の中ではトップ）、カザフスタンは 77 位にとどまっている。ウクライナ、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタンは下位に属する。

グルジア、アルメニアは NIS 諸国の中では小国であるがビジネス環境は比較的良好、特にグルジアは 15 位と日本（29 位）よりも投資のしやすい国である。

ロシアやウクライナ、カザフスタンは特に面積も広大であり、実際の投資検討時には国単位での投資環境に加え地域別での特性も考慮が必要である。

表 3-1 NIS 諸国のビジネス環境ランキング

国	順位	国	順位		
1	グルジア	15 位	7	ウクライナ	96 位
2	アルメニア	45 位	8	キルギス	102 位
3	ベラルーシ	57 位	9	ウズベキスタン	141 位
4	ロシア	62 位	10	タジキスタン	166 位
5	カザフスタン	77 位	11	トルクメニスタン	—
6	アゼルバイジャン	80 位		(参考) 日本	29 位

出所：世銀 “Doing Business 2015”

(1) 税率

NIS 諸国の税率を比較すると、トータルの税率ではタジキスタンが 80%強と最大だが、次いで農業国ウクライナが 52.9%、ロシアは 48.9%、カザフスタンは 28.6%となっており、いずれも労働者関連税の比率が高い点の特徴となっている。日本にとっては、基本的には自国の税水準（51.3%）を下回る国々が投資対象国となる。

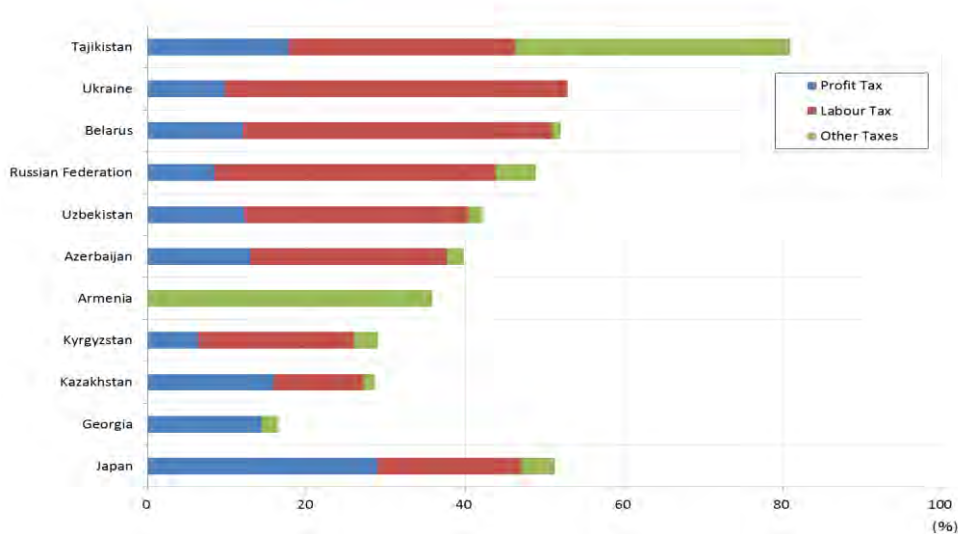


図 3-1 NIS 諸国の税率比較

出所：“Paying Taxes 2015” (Pwc) を基に作成

(2) 外国直接投資の動向

外資系企業による実際の投資実績である FDI(Foreign Direct Investment) の動向をみると、1992 年以降 2000 年代初頭まではほとんど投資がなされていない。その後ロシアについては急速な投資フローの流入が続いているが、これは主に資源バブルの影響によるエネルギー関連投資が中心と思われる。カザフスタン、ウクライナについても 2008 年頃までは 1,000 万米ドル台の投資がみられていたが、2013 年頃には小康状態に入っている。

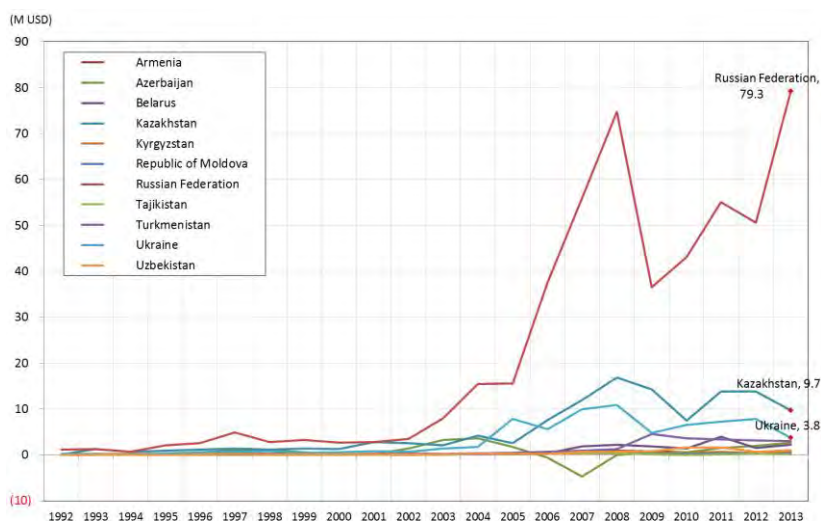


図 3-2 FDI Inflow

出所：UNCTAD を基に作成

2. NIS 諸国全体の貿易動向

NIS の貿易動向は、ロシアが輸出 5,233 億米ドル、輸入 3,430 億米ドルと規模で圧倒し、その他諸国は輸出入とも 1,000 億米ドル未満である。ロシア、カザフスタンとともに輸出主導で輸入を大幅に上回る一方、ウクライナは輸入超である。足許では貿易規模が鈍化する傾向がみられるものの、趨勢的には拡大基調にある。

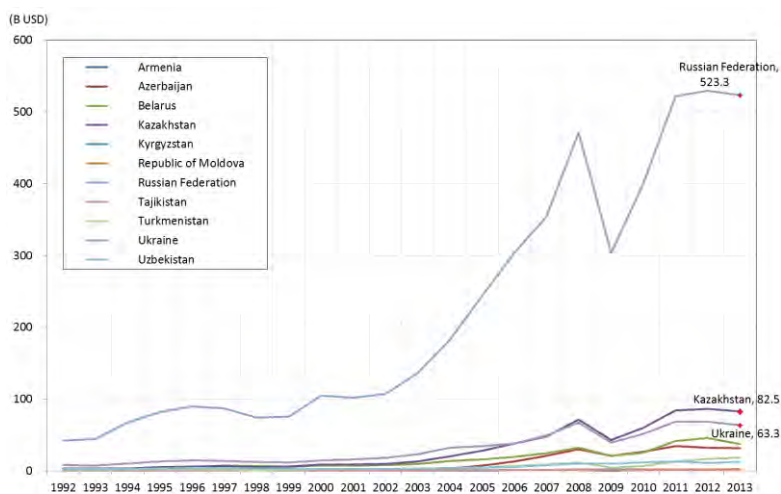
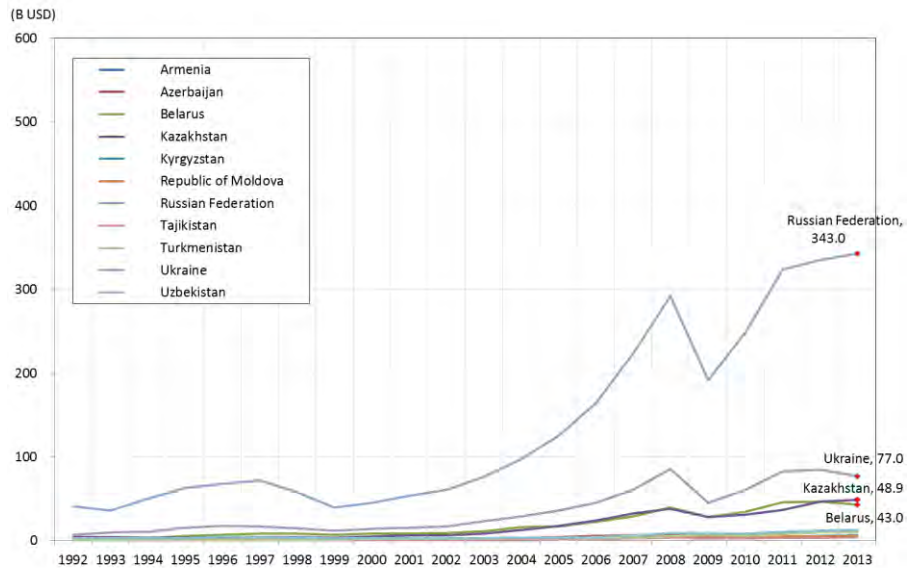


図 3-3 輸出金額

出所：UNCTAD を基に作成



出所：UNCTAD を基に作成

図 3-4 輸入金額

3. 農業セクターの動向

(1) 農業投資環境

NIS の農業人口規模は、ロシア、ウズベキスタン、ウクライナの順に多い。2000 年以降の 10 年間は、ウズベキスタン、アゼルバイジャン、タジキスタン、トルクメニスタンの農業人口が増加する一方、ロシア、ウクライナなどは減少している。

ロシア、ウクライナ、カザフスタンといった主要な農業国において担い手が減少していることについては、機械化など効率化推進の影響も考えられるものの、産業人口が減少しているという点で大きな発展がみられていないものと推察される。

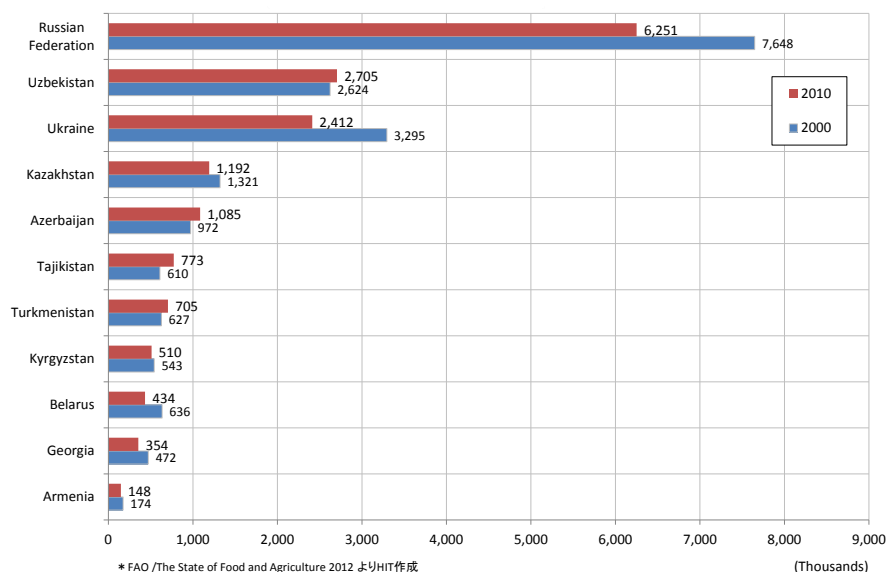


図 3-5 NIS 諸国の農業人口

農業生産物を生み出す基盤となる農業固定資本をみると、最も規模の大きいロシアやウクライナは過去 10 年間で減少傾向であるが、カザフスタン、ウズベキスタンなど資本財の増加により農業基盤を拡大している国もある。

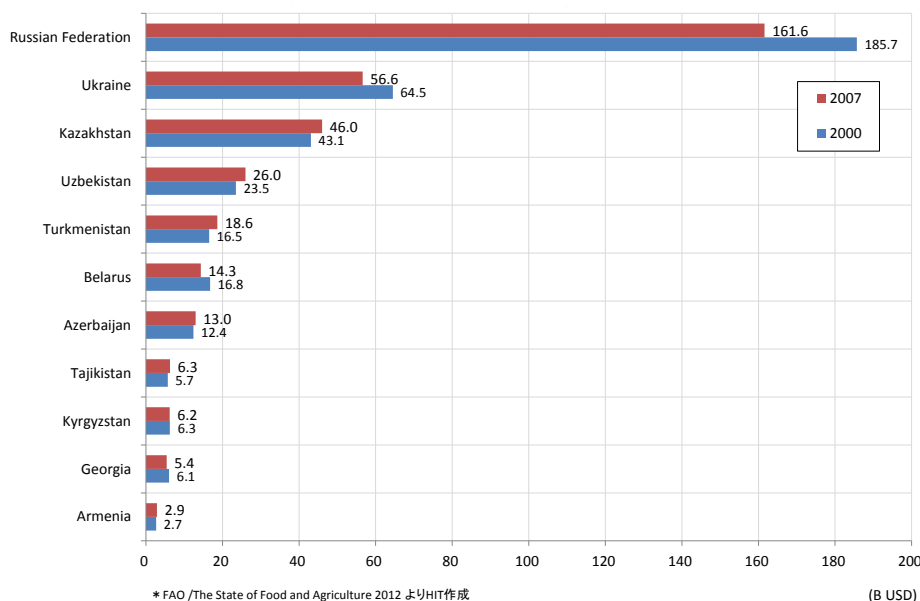


図 3-6 NIS 諸国に対する農業投資額

なお、ODA (Official Development Assistance) による農業投資は、かつてはキルギス、アゼルバイジャンへの支援が盛んであったが 2000 年以降の 10 年間で大きく減少し、2010 年現在ではタジキスタン、グルジアへの支援が目立っている。

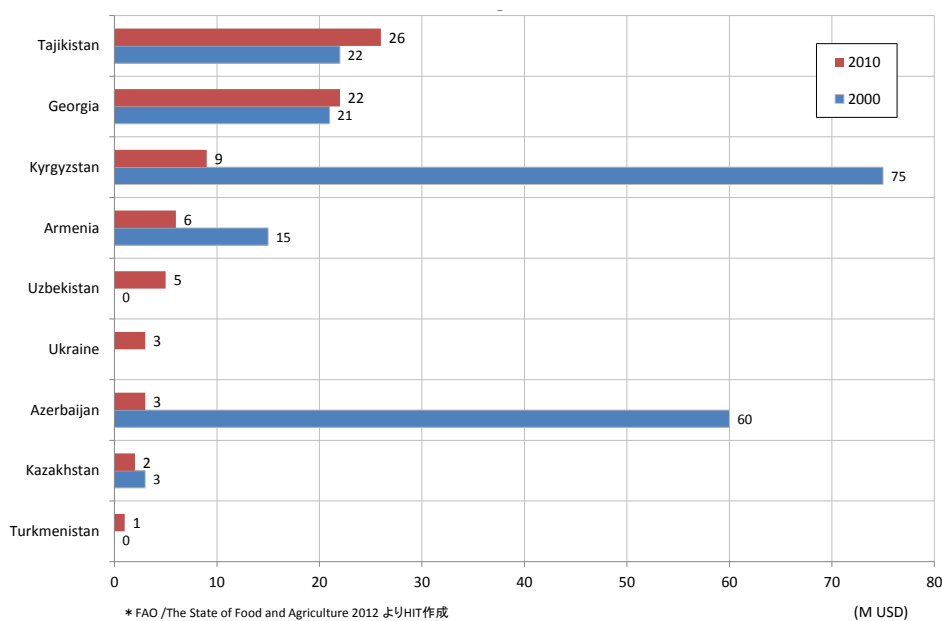
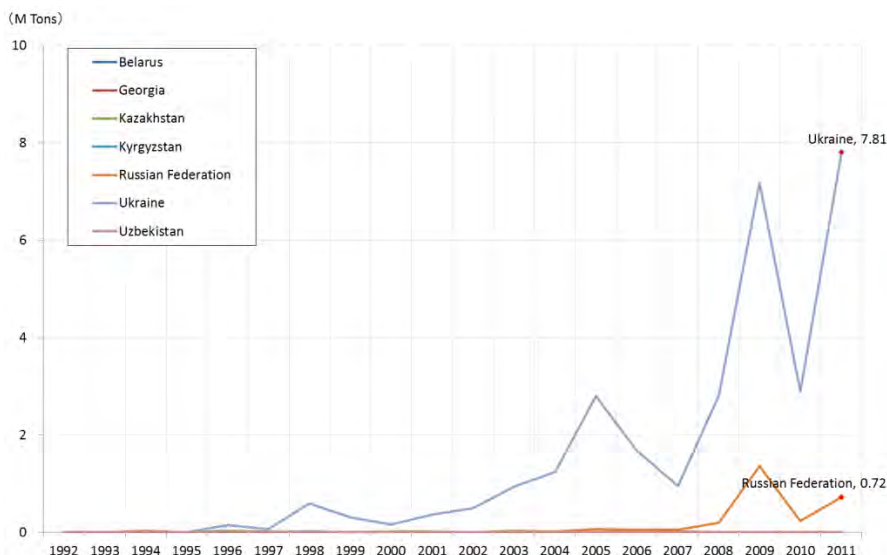


図 3-7 ODA による農業投資額

(2) 農業貿易動向

1) 輸出動向

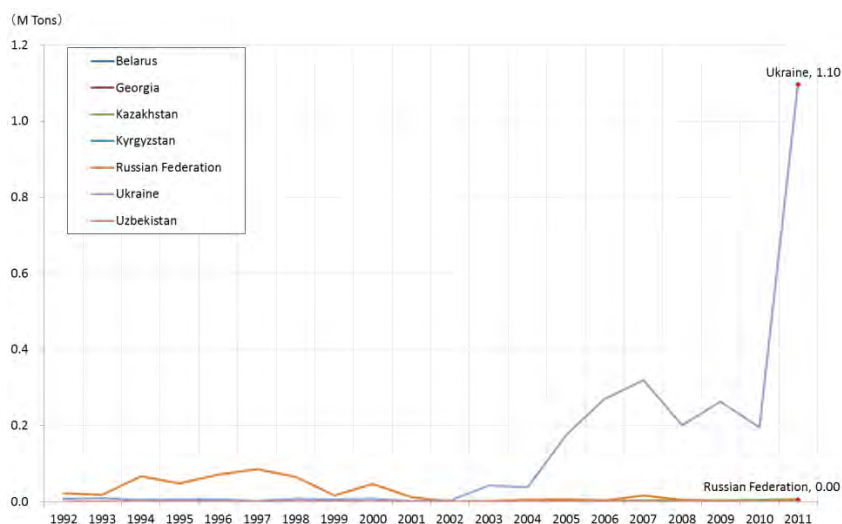
農業輸出の面では、NIS 諸国の中ではウクライナとロシアが中心である。とうもろこしについては、ウクライナが 2011 年で 781 万トンと世界でも米国、ブラジル、アルゼンチンに次ぐ規模を有しており、年により変動はあるものの、おおむね増加基調を維持している。



出所：FAOSTAT を基に作成

図 3-8 NIS 諸国におけるとうもろこしの輸出量

また、大豆の輸出についてもウクライナが NIS の中で突出しているが、世界規模で見ると数量はブラジル、米国などと比べ小規模である。

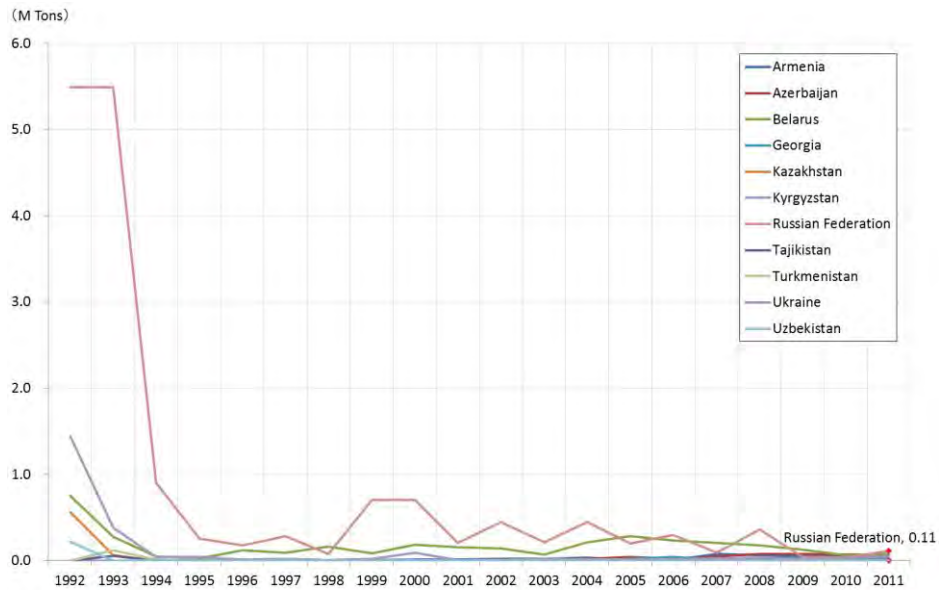


出所：FAOSTAT を基に作成

図 3-9 NIS 諸国における大豆の輸出量

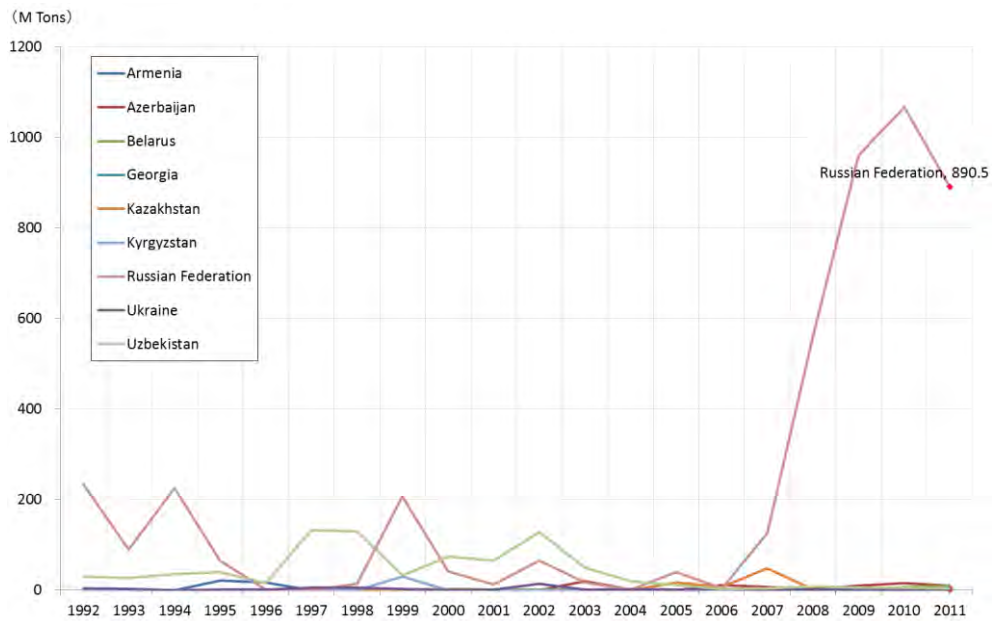
2) 輸入動向

輸入面では、とうもろこしと大豆では対照的である。すなわち、とうもろこしは 1995 年以降ほとんど大きな輸入規模がなく NIS の域内あるいは国内で自給しているとみられる一方、大豆については特にロシアが輸入に依存している。



出所：FAOSTAT を基に作成

図 3-10 NIS 諸国におけるとうもろこしの輸入量

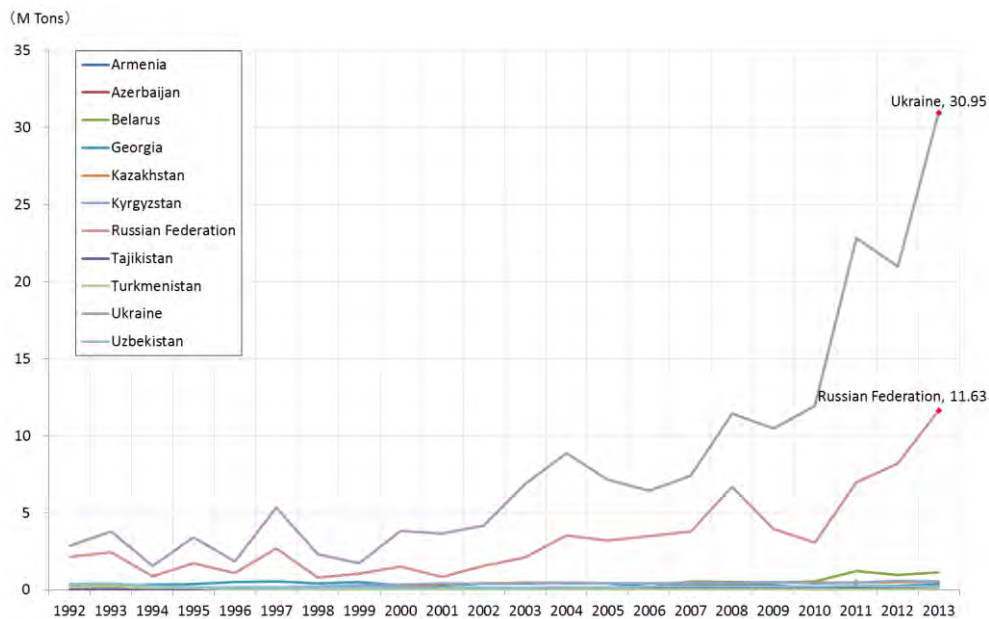


出所：FAOSTAT を基に作成

図 3-11 NIS 諸国における大豆の輸入量

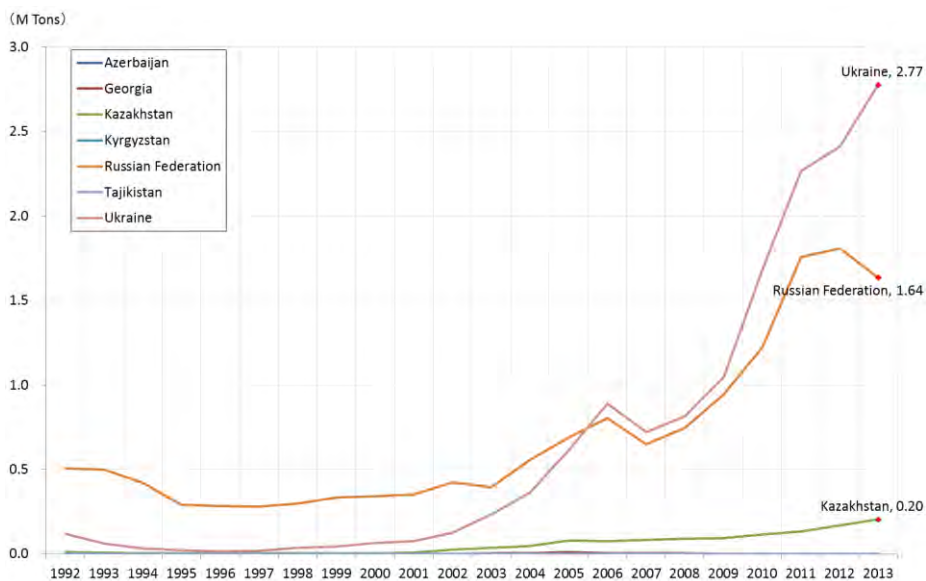
(3) 生産動向

生産については、とうもろこし、大豆ともウクライナおよびロシアが伸びており、特にウクライナでの生産量増加は際立っている。ただしこれは2013年までの実績であり、2014年2月以降顕在化したウクライナ危機およびその後のロシア経済制裁などによる影響が生じる前の数値である。



出所：FAOSTAT を基に作成

図 3-12 とうもろこしの生産量

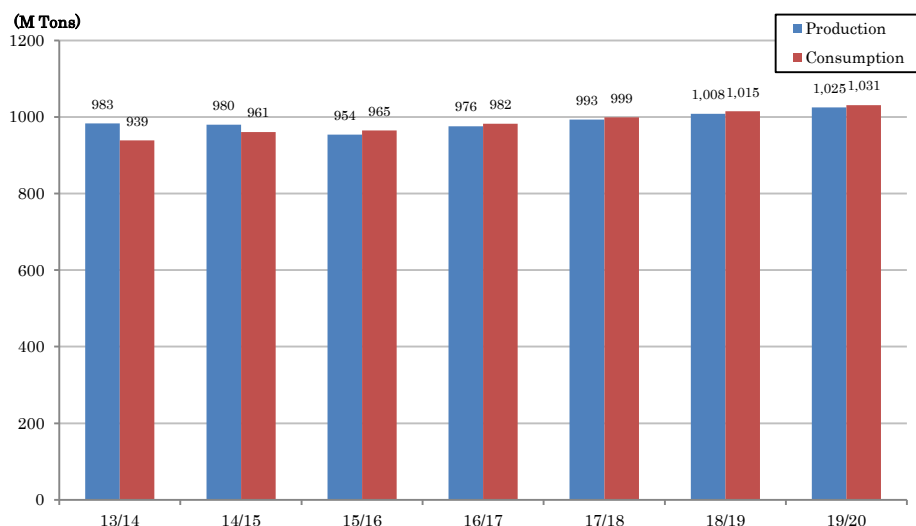


出所：FAOSTAT を基に作成

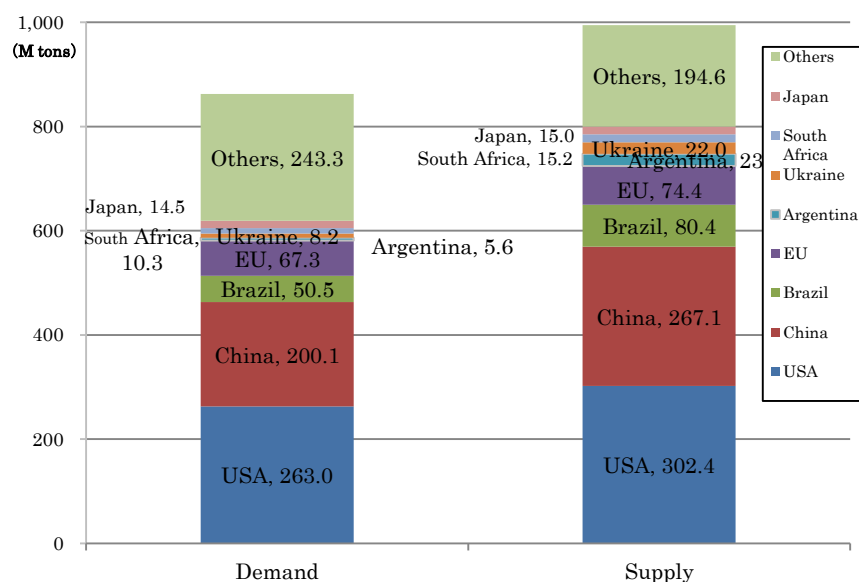
図 3-13 大豆の生産量

(4) 需要動向

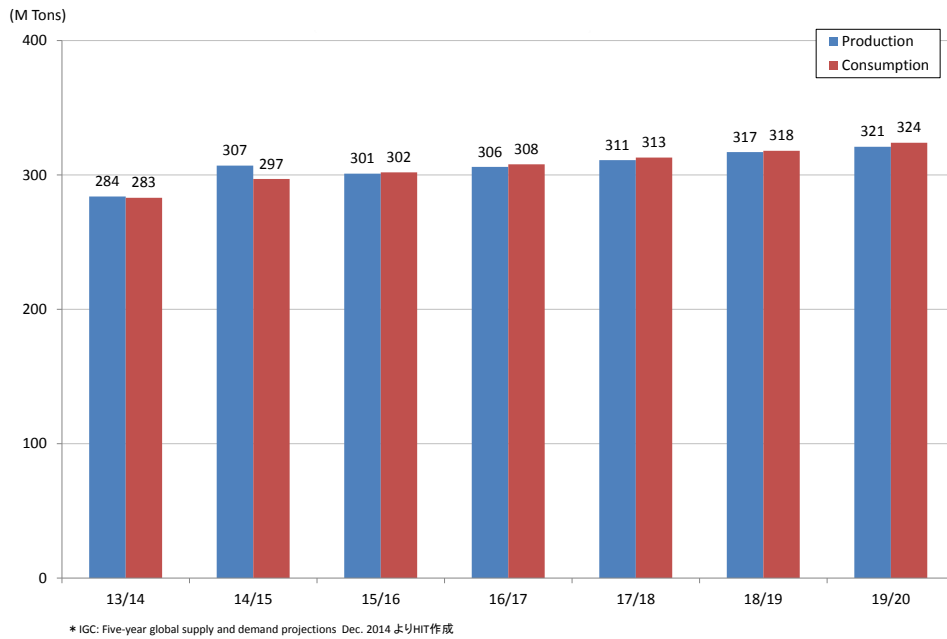
今後の世界的な需要見込みを供給とのバランスで見ると、とうもろこし、大豆とも 13/14,14/15 年時点ではやや生産（供給）が過剰気味ではあるものの、15/16 年以降は需給バランスのとれた形で増加トレンドを形成する。また需給シェアの構成国は、とうもろこしについては米国、中国、ブラジル、EU が、大豆については中国、米国、ブラジル、アルゼンチンがそれぞれ上位である。とうもろこしは供給が需要を上回り、大豆は逆に需要が供給を上回る。NIS の中ではウクライナがとうもろこしの供給量で 2,200 万トン（2012/2013 実績）でやや目立つものの、世界全体の中では約 2.2% 程度のシェアにとどまる。



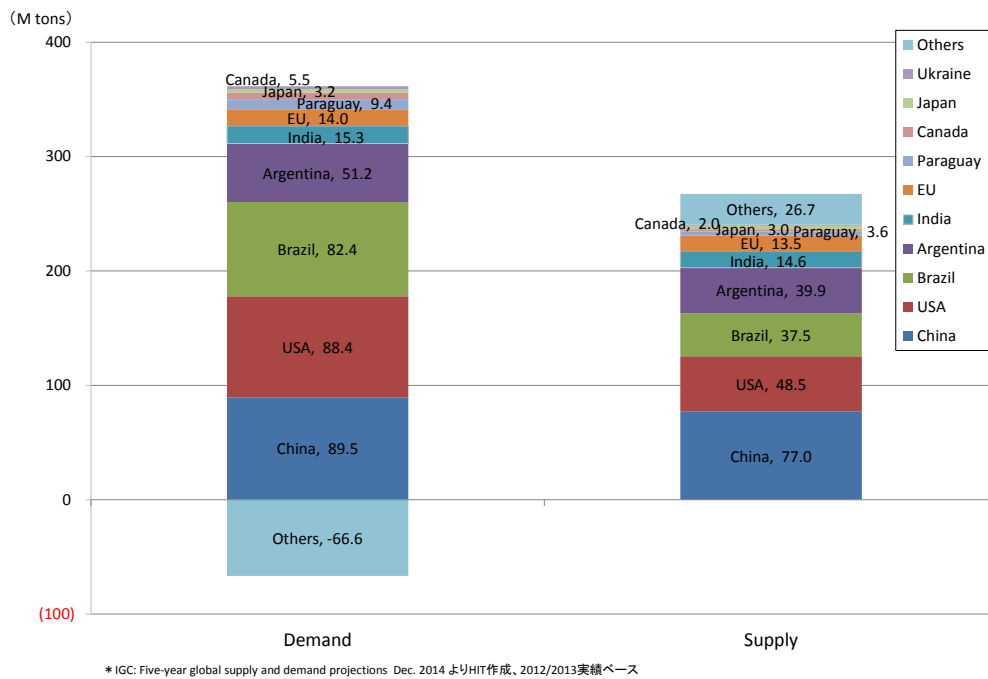
出所：IGC: Five-year global supply and demand projections Dec. 2014 を基に作成
 図 3-14 とうもろこしの需給予測



出所：IGC: Five-year global supply and demand projections Dec. 2014 を基に作成、2012/2013 実績ベース
 図 3-15 とうもろこしの需給予測



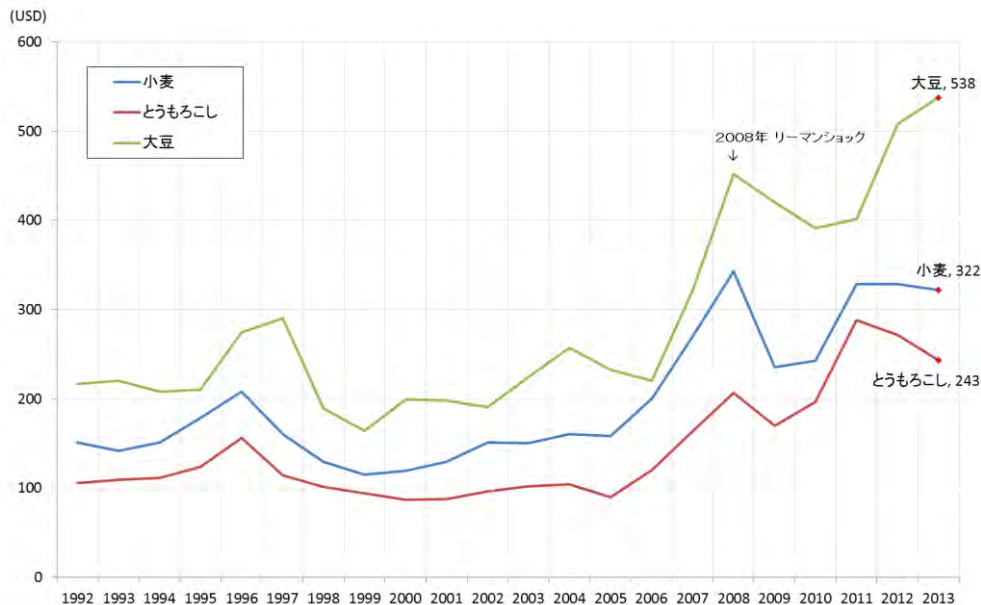
出所 : IGC: Five-year global supply and demand projections Dec. 2014 を基に作成
 図 3-16 大豆の需給予測



出所 : IGC: Five-year global supply and demand projections Dec. 2014 を基に作成、2012/2013 実績ベース
 図 3-17 大豆の需給シェア

(5) 価格動向

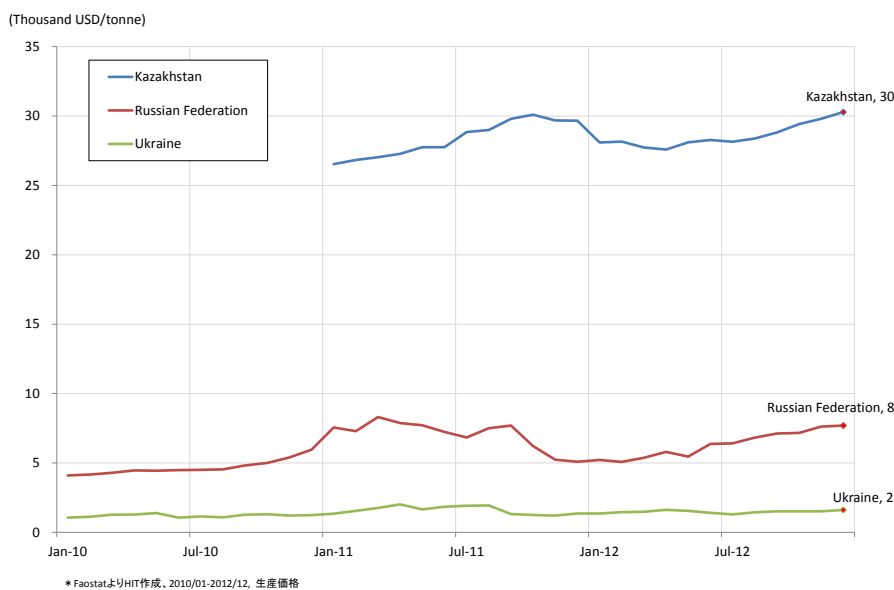
とうもろこし、大豆、小麦の作物価格は 2005 年頃から上昇ペースが上がり、リーマンショック後に一時落ち込むもその後持ち直している。ただし 2011 年以降は大豆が大きく価格上昇する一方、小麦はほぼ横ばい、とうもろこしは価格下落に転じており、それぞれ対照的な価格動向となっている。価格決定にはさまざまな要因が影響していると考えられるが、需給動向をある程度反映しているとみられる。



出所：UNCTAD を基に作成

図 3-18 作物価格

国別動向を比較するため、参考として 1 トン当たりの生産価格をみると、とうもろこし、大豆ともにカザフスタン、ロシア、ウクライナの順に価格が高くなっている。カザフスタンについては、内陸国であるという地理的条件から、農業資本・資材の調達や輸送にかかるコストが相対的に高いことも一因であると思われる。



出所：Fasostat を基に作成

図 3-19 とうもろこしの価格

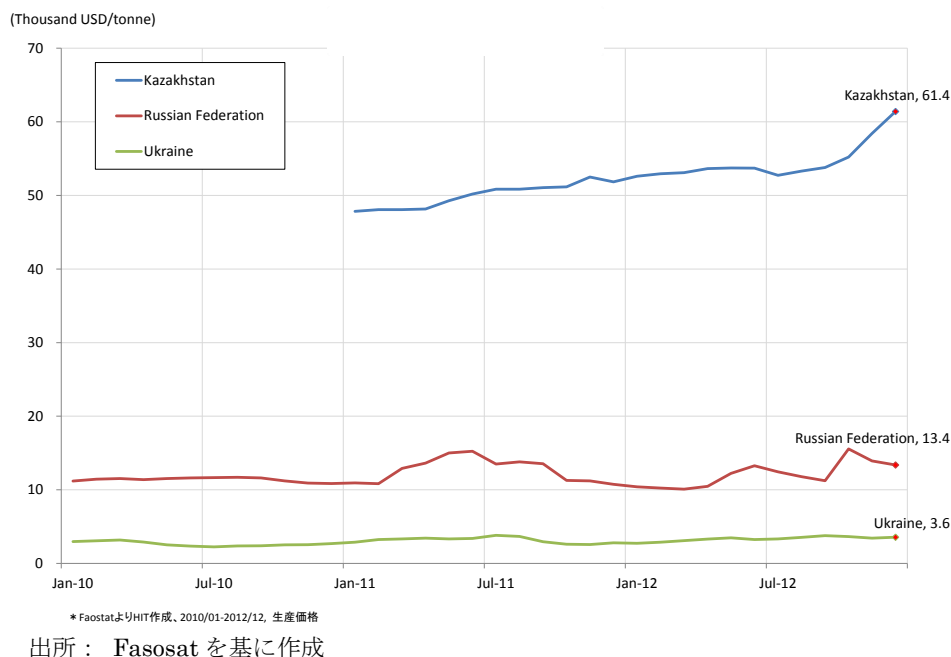


図 3-20 大豆の価格

なお、とうもろこし、大豆、小麦 3 品目の価格動向を 2015 年 2 月上旬までみると、2013 年頃から大豆は上昇、とうもろこし・小麦は下落し、価格の乖離が広がっている。しかし 2014 年初頭以降は水準こそ異なるものの、3 品目ともおおむね同じような価格動向をみせている。

とうもろこし・大豆価格下落の背景には、需給要因に加え世界的な米国の QE3（量的金融緩和第 3 弾）の終了に伴う商品市場からのマネー引き上げの影響もあると考えられる。しかし、ウクライナ情勢が悪化し始めた 2014 年 2 月以降は、3 品目間の相関が高まっている。さらに 2014 年後半以降は、原油安により農業機械の燃料や化学肥料などのコスト低下圧力が生じ、生産価格の下押し要因となっているものとみられる。

2015 年内とされる米国の利上げを控える中、大豆については需要の強さがある程度価格下支え要因となるものと考えられるが、特にとうもろこし、小麦についてはグローバルな投機動向の影響を受ける可能性がある。



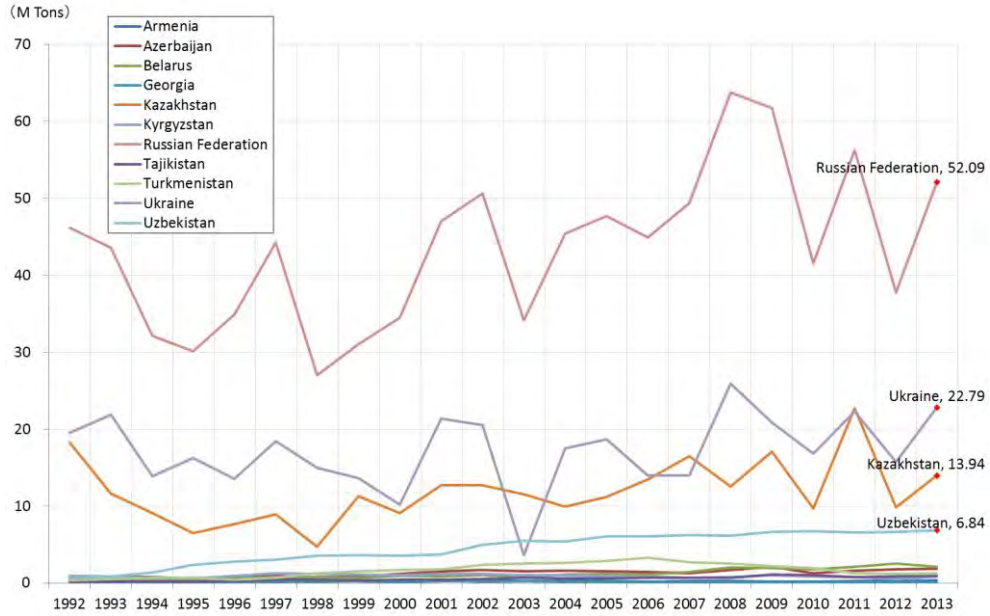
出所：Bloomberg, 15.2.12 時点、過去 3 年、相対指数

図 3-21 とうもろこし・大豆・小麦の価格動向

(6)小麦の生産・流通動向

1)生産動向

NIS の中ではロシア、ウクライナ、カザフスタンが小麦の主要生産国であるが、年によって生産量の幅は大きく、特に近年は3カ国の相関も高い。

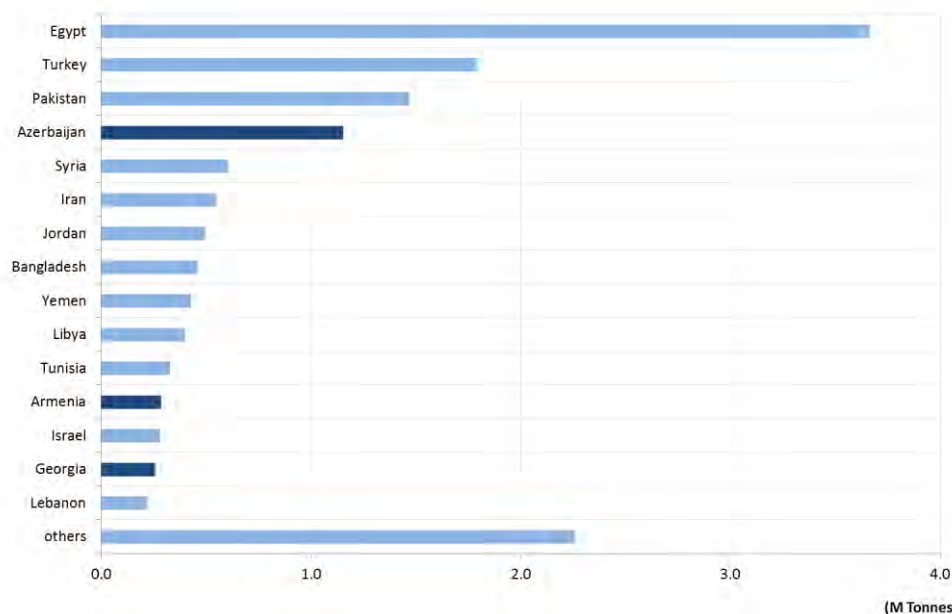


出所：FAOSTAT を基に作成

図 3-22 小麦の生産量

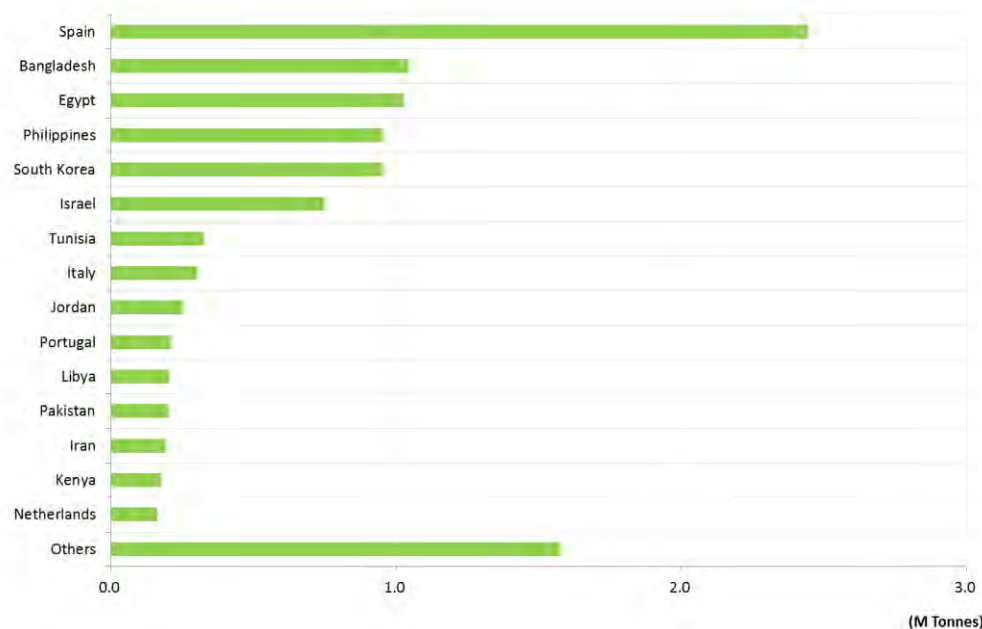
2) 流通動向

ロシア、ウクライナ、カザフスタンからの農産物の輸出先をみると、ロシアからはエジプトやトルコなど中近東方面が多く、コーカサス3国への輸出もある。またウクライナからはスペイン向けが最も多く³、NIS圏への輸出は上位にはない。一方、カザフスタンからは同じ中央アジアの4カ国や隣接するロシア向けの輸出が目立つ。これはカザフスタンが内陸国のため、輸送に日数・コストを要することが一因であると考えられる。



出所：Grain markets in Kazakhstan, the Russian Federation and Ukraine0(APK-Inform08/09)を基に作成

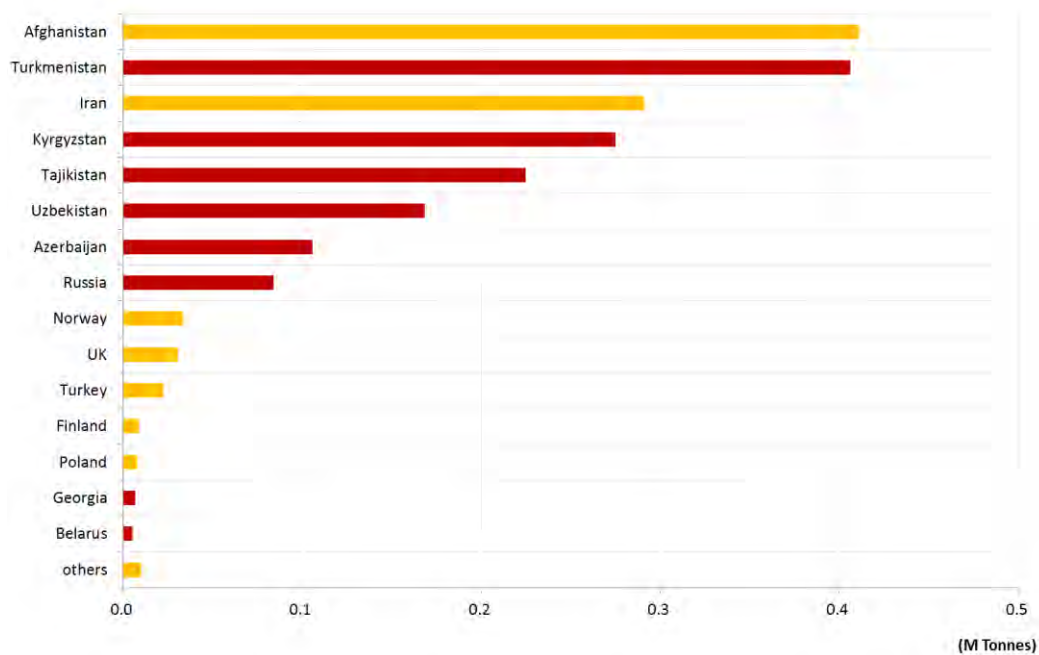
図 3-23 小麦の輸出先(ロシア)



出所：Grain markets in Kazakhstan, the Russian Federation and Ukraine0(APK-Inform08/09)を基に作成

図 3-24 小麦の輸出先(ウクライナ)

³ 『平成 22 年度世界の食料需給の中長期的な見通しに関する研究 研究報告書』(農林水産政策研究所) 第 5 章にて南欧諸国においては 2001 年以降、旧ソ連諸国からの小麦輸入を開始、輸送条件および需要の相違からスペインはウクライナ産小麦を輸入している旨の記載あり。イタリア、ギリシャはロシア産を主に輸入している。



出所：Grain markets in Kazakhstan, the Russian Federation and Ukraine0(APK-Inform08/09)を基に作成
 図 3-25 小麦の輸出先(カザフスタン)



出所：Agri Dossier of the Russian Federation, APK Inform.
 図 3-26 黒海・地中海沿岸の穀物輸出ターミナル

4. 輸出規制

ロシア、ウクライナ、カザフスタンの3カ国とも過去に何らかの輸出規制（Export Control）を実施しており、輸出数量や価格に影響を与える不確定要因となっている。しかし、実際には規制実施の効果は限定的であるという見方もされており、世界的な食糧安全保障や自由貿易促進の観点からは今後の柔軟な対応が期待される。なお、輸出規制によって大きな効果はないというのがIAMOの結論である。

表 3-2 過去に実施された輸出規制の実施事例

	カザフスタン	ロシア	ウクライナ
輸出規制	<ul style="list-style-type: none"> 輸出禁止（2008） 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出税課税（2007-08） 輸出禁止（2010-11） 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出割当制度（2006-08） 輸出割当制度（2010-11） 輸出税課税（2011） 覚書（2011）

出所：Price damping and price insulating effects of wheat export restrictions in Kazakhstan, Russia, and Ukraine(IAMO, 2014)



出所：Price damping and price insulating effects of wheat export restrictions in Kazakhstan, Russia, and Ukraine(IAMO, 2014)

図 2-27 輸出規制による価格への影響(小麦)

また、2014年にはカザフスタン、ロシアで穀物を対象とした政策的対応が発動されている。カザフスタンについては通貨テンゲの切り下げを受けた措置であり、ロシアについてはウクライナ情勢による欧米の経済制裁に対する動きと思われる。

表 2-3 穀物に関する政策対応

国名	作物名	時期	政策	内容
カザフスタン	小麦	2014年 2月	政府調達	50万9,000トンの穀物が、国内市場向けに固定価格（3万/t KZTで2～8月の間販売される。国内通貨の切り下げを受けたパンの価格を安定させるため。
ロシア	とうもろこし・小麦	2014年 9月	輸入税率	モルドバ・EU間の協議における同意を受け、モルドバ産農産物の一部に関税を適用

出所：“Food Outlook 2014” May, Oct (FAO)